

令和元年度  
セント・ピーターズバーグ市派遣  
高校生親善研修生報告書

令和元年7月22日(月)～8月1日(木) 11日間



公益  
財団  
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目次

1	セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生 日程表 .....	1
2	フォトギャラリー .....	3
3	引率者感想文 (公財)高松市国際交流協会 常務理事 中谷 忠弘 「常務と気の置けない仲間たち」 .....	5
4	親善研修生 報告書 I 香川県立高松西高等学校 2年 大岡 育之助 日誌・活動記録 .....	9
	感想文「発見ばかりの10日間」 .....	18
5	親善研修生 報告書 II 高松第一高等学校 1年 白石 萌絵 日誌・活動記録 .....	19
	感想文「気づき」 .....	28
6	親善研修生 報告書 III 香川県立高松高等学校 1年 菅 凜太郎 日誌・活動記録 .....	29
	感想文「新しい目標」 .....	37



## 令和元年度 セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生 日程表

令和元年 7月 22日(月) - 8月 1日(木)

日時	場所	研修内容
7月 22日(月)	高松空港—タンパ空港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高松空港：出発式</li> <li>・シカゴ空港経由でタンパ空港へ</li> <li>・セント・ピーターズバーグ市役所職員、ホストファミリーによる出迎え</li> </ul>
7月 23日(火)	セント・ピーターズバーグ旧警察署 (市役所を新設中のため)	・市長表敬
	セント・ピーターズバーグ警察本部	・署内見学
7月 24日(水)	WFTS-ABC Action News	・折紙ワークショップについてのTVインタビュー
	トロピカーナ・フィールド	・タンパベイ・レイズ野球観戦
7月 25日(木)	ダリ美術館	・サルバドール・ダリの作品鑑賞 (現地連絡員による解説)
	The Hangar Restaurant	・歓迎昼食会
	アザレア レクリエーションセンター	・粘土でアート作品作り
	タイロン スクエア モール	・ショッピング
7月 26日(金)	セント・ピーターズバーグ商工会議所	・高松市についてのプレゼンテーション
	イマジンミュージアム	・館内見学
7月 27日(土)	Museum of Fine Arts	・折紙のワークショップで折鶴を教える
	The Hollander Hotel	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プールパーティ</li> <li>・SPIFFS【セント・ピーターズバーグ国際民族会】のメンバー及び、ホストファミリーとの食事会</li> </ul>
7月 28日(日)	【ホストファミリーデー】	
7月 29日(月)	セント・ピーターズバーグ市街	・壁画ツアー (担当者による解説)
7月 30日(火)	Shuffleboard Club Ballroom	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SPIFFS 主催の送別会</li> <li>・高松市についてのプレゼンテーション</li> <li>・各国の民族舞踊の鑑賞</li> <li>・ポータックパーティ (世界の料理)</li> </ul>
7月 31日(水)	タンパ空港	・関係者、ホストファミリーのみなさんによる見送り
8月 1日(木)	高松空港	・研修生家族による出迎え

研修生：7/23(火)から8/1(木) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

引率者：7/23(火)から8/1(木) セント・ピーターズバーグ市内のホテルに宿泊



# ST.PETERSBURG PHOTO GALLERY 2019

タンパ空港到着



商工会議所でのプレゼンテーション



市長表敬



タンパベイ・レイズ野球観戦



ダリ美術館見学



イマジンミュージアム見学



セント・ピーターズバーグ警察本部見学



アザレア レクリエーションセンターで  
アート作品作り



WFTS-ABC Action Newsにて  
TVインタビュー



市街壁画ツアー



Museum of Fine Artsにて  
折紙ワークショップ



SPIFFS主催の送別会



# 引率者感想文







## 常務と気の置けない仲間たち

(公財) 高松市国際交流協会  
常務理事 中谷 忠弘

大岡君 (いっくん)、菅君 (リンちゃん)、白石さん (モエちゃん) と私の4人は、7月22日 (月)、早朝にも関わらず、それぞれの家族や (公財) 高松市国際交流協会事務局の河野さんの見送りを受け、派遣親善研修生プラス引率者としてセント・ピーターズバーグ市 (以下、セ市) に旅立った。



羽田空港到着後、国際線ターミナルには、バスで移動。国際線ターミナル到着後、3階に進み、手荷物検査、出国審査とチェックインを済ませ搭乗時間を待つ。シカゴへは、羽田から約12時間の旅で、シカゴオヘア空港には、朝の8時30分に到着した。みんな、初めてのアメリカシカゴで緊張気味。私も引率者という立場で、入国審査等で間違えてはいけないと緊張気味だ。オヘア空港では、APC

**保護者の方々の見送りを受けて (高松空港)** KIOSK という自動入国審査機で質問に答え、有人のカウンターで入国審査、預けた荷物の受取、税関審査を経て、国内線のユナイテッド航空の乗り継ぎカウンターで、再度、手荷物を預け、一旦国際線の出口から出る。そこに、乗継案内ガイドのヒグチ ユミコさんがいて、国内線ターミナルまで巡回バスで案内してくれた。国内線ターミナルまでのわずかな時間ではあったが、ヒグチさんのおかげでスムーズに移動することができた。後は、フロリダ州タンパ空港まで搭乗するのみだが、シカゴで6時間のトランジットとなった。その間、空港内を見学したが6時間は長い。タンパ空港へは3時間の搭乗で、夕方6時30分に着いた。到着後、シャトルに乗りメインターミナルへ。到着ロビーには、現地で親善研修生事業をサポートしている SPIFFS (セント・ピーターズバーグ国際民族会) のロッタさん、セ市職員のジョンさん、それぞれのホストファミリーらの出迎えを受けた。通常、手荷物を受け取り到着ロビーに行くと思っていたため、いきなりの出迎えで驚いた。簡単な挨拶を済ませ、みんなで手荷物を受け取りに行ったが、その時アクシデントは起こっていた。ターンテーブルで待っていると、口の開いたスーツケースが流れてきた。それは私の物であった。よく見ると、鍵が壊れている。取扱旅行者の高松商運・田井さんから、セキュリティチェックが最も厳しいアメリカでは、TSA ロック (アメリカ運輸保安局によって認可・容認されたロック) 以外は、鍵をかけずに預けた方が良いと教わっていたため、鍵をかけていなかったのに壊されていた。これが、アメリカかと落胆し、これから10日間は憂鬱になった。スーツケース本体は壊れてなかったが、鍵が壊され、かからなくなっていた。ベルトを付けていたため中身は出ていなかった。がっかりしつつ、再度、鍵を見たら、なんと、そこには TSA 認証マーク。TSA ロックのスーツケースだった。鍵をかけていても良かったのだ。単に自分の勘違いであった。自分自身が情けないと思いつつ、済ん

でしまったことは仕方ないと気を取り直して、自分を慰めた。

その後、タンパ空港から、研修生はホストファミリーの家へ向かい、私は常宿のホルンダーホテルにロッタさんの車で送ってもらった。空港からの道のりは、タンパ湾に架けられたハワード・フランクリンランド橋を通るハイウェイで、約30分でセ市に着いた。ハイウェイでは、日本車が目立ち、7、8割を占めていた。ロッタさんの車も日本車で、なぜ日本車が多いのか聞くと、日本車は性能が良く、故障しないからだとの答えだった。日本人として誇らしく感じた。車窓からの景色は、小雨が降っており、どんよりとした黒い曇りで空が覆われていた。日本と比べ、雲が大きく見えた。それは周りに山や高いビルなどがなく、雲が下の方から膨らんで広がって見えたからだった。

さあ、これから、アメリカ本土の旅が始まる。

2日目からは、ロッタさんに加え、現地連絡員のプランタムラさんも合流し、サポートをしてもらった。セ市の市長表敬や警察本署の見学などの公式行事が目白押しで、日中は分刻みの行動になる。その中で、私が印象深かったものを紹介する。

まず、27日（土）に開催予定の折紙ワークショップの内容を紹介するTVインタビューだ。インタビューは、24日（水）に、ABCニュースのスタジオで収録された。そこで、彼らは挫折を味わうことになった。収録は、ロッタさんも含めた4人で、番組の司会者からインタビューを受けるものだった。横から見ても、スムーズに進行されており、いい出来栄えだと感じていたが、彼らは不満足であった。司会者からの問い掛けに、英語のスピードが早くて内容が



いよいよ本番



たくさんの参加者

理解できず、正確に答えられなかったというものだった。折紙ワークショップは、ファインアート・ミュージアムのロビーで開催され、午前中だけで延べ150の方が参加し大変好評であった。参加者は、7、8人が座れるテーブルを囲み、折鶴を折っていた。彼らは、各テーブルを回り、折り方を詳しく教え、言葉の壁も関係なく、3日間の出来事も忘れ楽しく過ごしていた。今回の研修プログラムの中で、一番笑顔が弾けていて満足感が漂っていた。

午後は、トロピカーナフィールドで、メジャーリーグの野球を観戦することができ、いい気分転換になった。地元

のタンパベイ・レイズと名門ボストン・レッドソックスの試合だ。結果は、レイズが3対2で強豪レッドソックスを下した。野球場は、屋根付きの屋内球場で、観戦する人たちは、陽気で、純粋に最良のチームを、ポップコーンをつまみながら応援していた。また、セ市は、1年を通じて温暖な気候で、リタイア層も多く住んでいるため、お年寄りと小学生が目立った。26日（金）の商工会議所でのプレゼンテーションでは、パワーポイントを使い、「讃岐のり染め」



商工会議所のみなさんと

「栗林公園」「瀬戸内国際芸術祭」など、高松市の紹介を立派にやり遂げた。会議所メンバーは、高松市に興味があり、様々な質問を繰り広げ、彼らは、それに対し丁寧に答えていた。

私は、ホストファミリーデーや行事のない午後など、研修生と別行動の時間は、市内を散策することが多かった。ダウンタウンは、セントラルアベニューを境に、南北でアベニュー・ノースとアベニュー・サウスに区分され、東西は港からストリート名で呼ばれていた。ホテルから10分程歩くとヨットハーバーがあり、大きなヨットが停泊していた。その近くには、プランタムラさんに教わった高級スーパー「Sundial」があり、セントラルアベニューの近くには、「Publix」というスーパーマーケットがあった。こちらは、日本でいう「スーパーマルナカ」だ。何でも揃っており、冷房も効いていて、私の落ち着ける場所の一つであった。



SPIFFSのメンバーの方たち

帰国前日は、SPIFFS主催の送別会が開催され、研修生は最後のプレゼンテーションを行った。この頃になると、雰囲気十分に慣れて余裕を感じた。ロッタさん、プランタムラ御夫婦、すべてのホストファミリーなどが集まり、多国籍料理を楽しみながら最後の別れを惜しんだ。また、SPIFFSの日本人メンバーであるチカさん、マコさんに会うことができた。この派遣事業を十分理解しており、積極的に参加したかったが、我々がセ市にいつ来るのか分からなかったようだ。特に、マコさんは、日本語教師で、5、6月は日本、7月以降は、アメリカにいますので、都合がつけば、市内案内など協力できるとのことであった。来年以降の参考に事務局に伝えることにした。

今回の派遣事業は、高松市とセ市の研修生が、お互いの家をホームステイし合う環境であったため、研修生同士が大変仲良くなっていた。私は引率者として、公式行事では厳しく接していたが、それ以外では、それぞれ個人に任せていたので、自由にのびのびと行動していた。締めつけるよりも、自由にさせたほうが自然と国際交流ができると判断したからだ。

また、毎日のようにホテルでピックアップしてくれた青色の服がよく似合う素敵なレディ ロッタさん、SPIFFSのメンバーの皆さん、公式行事での通訳やダリ美術館でガイドをしてくれたプランタムラさんと御主人のビルさん、交換研修生のエレノア、テイラー、レイラ、それぞれのホストファミリー及びこの派遣事業に携わってくれたすべての人に感謝する。

高松空港で、河野さんや彼らの御父兄の迎えを受けたとき、彼らを怪我もなく病気もなく、無事に家族に引き渡したことで、引率という重い任務が終了したという安堵感と達成感があった。

彼らにとって、わずか10日間ではあるが、異国の文化、習慣を体験したことは、掛け替えのないものになる。改めて、外国から日本を見ることで、日本の良さ、高松の良さを感じてもらいたい。

今回の研修の成果を、今後の人生に活かすことを期待する。



# 親善研修生 報告書 I



## 日誌・活動記録

香川県立高松西高等学校 2年 大岡 育之助

**7月22日(月)**

今日は、待ちに待った出発の日。興奮しすぎるあまり、目覚まし時計の設定時間よりも、はるかに早い時間に起きてしまった。そして、パスポートがあるかどうか何回も確認しながら高松空港に向かった。空港では一番乗りだった。後に他の研修生2人が到着し、カウンターで大きなスーツケースを預け、保安検査場の辺りで出発式を終わらせた。海外の生活や家族と離れるという不安も少しはあったけれど、新しい地へ足を踏み入れるという高揚感がすべてをかき消してくれた。

羽田空港につき、少し休憩してからシカゴ行きの便に乗った。人生最大の約12時間のフライトだったので、退屈でとても疲れると思っていたが、寝たり、音楽を聞いたり、映画を見て過ごすとな案外時間はすぐに経過した。空港に着いてからは、入国審査を行った。海外に行くたびに思うが、入国審査官との対話はいつも緊張して慣れないなと思った。シカゴ空港に着いてからは、タンパ行きの便まで6時間ほどあったのでお昼ご飯を食べたり、お土産屋に行って時間をつぶした。お昼ご飯はマクドナルドで食べた。アメリカに来てまでもマクドナルドで食べるのかと思ったが、食べ慣れていて体調も崩しなくなかったので食べることにした。Sサイズを頼んだが、自分が思っていたよりも量が多くてびっくりした。お土産屋では、すべて英語表記の商品だったので、外国に来たんだという実感が湧いた。今回3回目のフライトの時がやって来た。3人とも疲れていたのか、気づいたら寝ていた。目を覚ますと着陸態勢に入っていた。そして長旅の末、たくさんの人が行き交うタンパ空港に到着した。飛行機内の空調が効きすぎていたせいか、のどがカラカラに乾燥していた。しかし、ホストファミリーとの集合場所の距離が近づくにつれて胸の高鳴りが増していき、渴いたのども自然と潤っていた。そして、対面の時、空港の到着ロビーでは、今年のセント・ピーターズバーグ市からの研修生がいるホストファミリーと、SPIFFS (セント・ピーターズバーグ国際民族会) の方々が、歓迎の意が込められた横断幕を掲げて、僕たちを待っていてくれた。今回、僕を受け入れてくれるアンダーソン家は、ホストマザーのエリザベス、その友人のマイクとペットの犬、マーベリック、そしてセント・ピーターズバーグ市親善研修生のエレノアだ。エレノアとは初対面ではなかったので、顔を見た時は安心した。それからホストマザーに送迎してもらった道中、一台も軽自動車走っていなかったことに驚いた。また、車窓から見える海について説明してくれた。夕日が映り、とても美しい光景だった。そのまま家に行くのかと思ったが、海沿いの港に近いホテルのレストラン「ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテル」に連れて行ってくれた。そこには他のホストファミリーやSPIFFSのロッタさんもいた。僕は枝豆味の野菜多めのタコス



乗継 シカゴ空港



車窓からの海の眺め

スを頼んだが、今まで食べたことがなかったので不思議な味がした。そして、枝豆は英語圏でも



EDAMAME ということに驚いた。日本語が使われているのを見るとなんだかうれしくなった。そうして楽しい夕食会は終わった。

家に着くとエレノアが僕のスーツケースを車から運んでくれ、普段ホストファミリーが使っている部屋を貸してくれた。それからエレノアと映画鑑賞を楽しみ、明日の予定を確認して、倒れ込むようにベッドで就寝した。

## 7月23日(火)

今日の朝はゆっくりしていてもいい日だったが、5時に目が覚めた。リビングに行くと、ホストマザーが仕事に出掛ける支度をしていた。ホストマザーは弁護士の仕事をしているので、朝が早く忙しそうにしていた。朝ご飯は、マフィンとシナモンロールと色とりどりの果物だった。ちょうどエレノアも起きてきたので一緒に朝ご飯を食べた。市長表敬が2時からで、かなり時間があつたので、エレノアとペットのマーベリックと海沿いの公園を散歩することにした。セント・ピーターズバーグ市では16歳から車の運転をすることができるため、高校生だけで公園に向かった。自分と同じ年齢の人が運転している車に乗るのはとても新鮮だった。

公園は海沿いに連なるとても広いところで、海をのぞくとイルカの群れを発見した。じっと海を見つめていると、まるで水族館のショーのように、目の前でイルカが大ジャンプをした。エレノアも、



至る所に出没するリス

ジャンプしているイルカを間近で見るとは初めてだったようで、うれしさのあまりハイタッチをした。マーベリックもうれしそうに芝生に寝転んでいた。海だけでなく、道に生えている木には、リスが住みついていて、リスが横断歩道を渡っていたり、いろんな場面でリスをよく見かけ、自然を身近に感じることができた。

お昼は、他のホストファミリーとご飯を食べる約束をしていたので、その場所に向かった。チキンの入ったジューシーなタコスを食べた。タコスというと外側の皮が固いイメージがあつたが、柔らかく食べやすかつた。味が濃くて驚いていると「普通だよ」とエレノアに言われて驚いた。

ご飯を食べた後、市長表敬に向かった。僕たちが市長表敬に行ったときは、市役所が改修工事を行っていたため、その代わりに昔使われていた旧警察署が代用されていた。ついに、市長と対面する 때가やって来た。とても怖い人だったらどうしようかと思ひ、緊張していた。市長室に入ると市長が満面の笑みで僕たちを迎え入れてくれたので安心した。「セント・ピーターズバーグ市はどうですか?」と聞かれたときは安堵の表情で答えた。市長室内は、大きなアメリカの国旗が掲げられていて、誇りを持って仕事を全うしているという事に心から感心した。その後、僕たちが持参した香川の伝統工芸品や歴史あるお土産を渡した。とても喜んでくれたのでうれしかった。近くのショー



エレノアと犬と海沿いで散歩



市長表敬

ケースには高松市からのお土産が飾られていた。こうして、無事市長表敬が終了した。

次にセント・ピーターズバーグ警察本署の見学に行った。警察署までは距離が近かったので歩いて行った。署内には体格の大きい人がたくさんいて、みんな筋肉がもりもりでびっくりした。また、施設にも驚いた。市民の声を聞く緊急用24時間対応のテレフォンサービスを行っている施設や筋トレルーム、また、簡易のコンビニエンスストアのようなものまで完備されていた。さらに、市内はハリケーンがよく来るため、住宅が吹き飛ばすような強さのハリケーンにも耐えられるよう設計されているのだ。そのような気候の特色に合わせて造られていることに深く関心を抱いた。署長と面談する機会が署内であった。署長はそこで銃について深くお話をしてくださった。「銃は相手をおさえるための武器として扱っているのではなく、尊敬し信頼しているパートナーだ」というお話を聞いた時には深く納得した。自分の銃に対する考え方が大きく変わった。そうして警察署訪問は終了した。

その後、私たち研修生3人とセント・ピーターズバーグ市親善研修生の3人で、パットゴルフに行った。初めての体験だったのでワクワクした。ホールインワンを3回も出したので、思わず笑みがこぼれてしまった。エレノアに「MVPだよ」と言われた時は、ガッツポーズをして全力で喜んだ。セント・ピーターズバーグ市の研修生であるテイラーが、ゴルフボールに動いてほしいときに、一生懸命息を吹き込んでいる姿はとて面白かった。そうして楽しい時間は一瞬で過ぎた。

家に帰ってからは、ホストファミリーと一緒に夕食を食べた。メニューはサーロインステーキとサラダとフライドポテトだった。家族だんらんの場で食べるご飯は、より一段とおいしく感じた。ホストファミリーと楽しい夕食を終えた後、お風呂に入って早めに就寝した。

## 7月24日(水)

今日は昨夜早めに就寝したお陰か、早い時間に起床することができた。今日はTVインタビューと野球観戦がある。朝ご飯を食べて身支度を済ませて出発した。エレノアのお母さんに「今日で有名人になるわね」と言われた時は少し照れくさかった。SPIFFSの方のご厚意によって、TVスタジオまで送迎してもらった。向かう道中、橋を渡った時、すごく空がきれいに見えた。日本と比べて山がほとんどないので開放感があったからかもしれない。スタジオに到着後、化粧室が完備されている部屋に案内された。本当に芸能人になった気分がして、3人でとても興奮していた。テレビ画面がそこら中であって、TVスタジオに自分たちがいることを実感した。今回インタビューされる内容は「Museum of Fine Arts」で行う折紙展示会について紹介するという事だった。



緊張したテレビ出演

テレビ収録では、日本の湿度や気温、また、折紙の素晴らしさについてインタビューされたが、僕の手ごたえとしては微妙なところだった。なぜなら、折紙を折りながらのインタビューだったが、緊張しすぎて手元ばかり見えて、一切カメラに視線を向けることができなかったからだ。収録後、動画を見直してみると3人とも下を向いていて、逆にシュールで笑ってしまった。いつかこのような機会があれば、カメラに視線を合わせることを意識しようと思った。

その後、タンパベイ・レイズの野球観戦のために、トロピカーナ・フィールドに向かった。対戦相手はレッドソックスである。所狭しと人がいて賑わっていた。平日なのにたくさんの野球ファンや学校の遠足で来ている人がいて、野球はとても人気のあるスポーツなんだと思った。昼過ぎでお腹がすいていたので、フライドポテトと粒々のアイスクリームを食べた。ビーズほどの大きさのアイスが口の中で広がって食感を楽しむことができた。

試合中は、レイズサポーターによる「Let's go Rays!!」という歓声が湧き上がった。僕も必死で声が枯れるほど応援した。ゲームでは好プレーやヒットがたくさん出た。そのおかげかレイズは見事勝利することができた。

試合が終わった後、スタジアムの近くのスムージー屋さん、エレノアとその友達と一緒にいった。僕はそこでマンゴースムージーを飲んだ。試合終わりだからか、店内にはレイズサポーターがたくさんいた。店員に「Welcome to Tampa」と言われ、いろいろサービスしてくれた。

今日は、朝が早かったので昼過ぎから眠たくなった。そのため、家に帰って昼寝をすることにした。少し仮眠を取っ



トロピカーナ・フィールドにて野球観戦



エレノアの友達とビリヤード

た後、エレノアの友達と一緒にビリヤードをしに行った。初めてだったのでルールがよく分からなかったが、親切に教えてくれた。2時間弱ビリヤードをしていたので、最初に比べてビリヤードが上達した。近くにピザ屋さんがあったので、そこでピザを買ってビリヤードをしながら食べることにした。アメリカのピザは日本と比べてサイズが大きくて、2枚食べるとお腹が一杯になった。チーズとトマトソースが絶妙にマッチしていて、シンプルなのにとってもおいしかった。途中から地域の人とも一緒にビリヤードをした。共にスポーツをする事によって、言語など関係なく仲良くなることができた。

夜は、お昼にビリヤードをした友達も含め、テイラーの家で映画を見た。日本語音声で英語字幕だったことはとても有難かった。夜が遅いこともあり、映画が完結する前にみんな家に帰った。

家に帰ってからシャワーを浴びた。温度調節がとても難しく、今までは冷水でシャワーを浴びていたが、今回はうまく自分の好きな温度で浴びることができた。明日も早いので準備をしてすぐ寝た。

## 7月25日(木)

今日は、ダリミュージアムに行く日だ。自分が最も行きたかった場所の1つである。エレノアにミュージアムまで送迎してもらった。オープンカーなので、髪をなびかせながら向かった。その道中でサッカースタジアムや大学、ホストマザーの職場などを紹介してくれた。ミュージアムの建物自体が芸術作品の様で、遠くからでもそれがダリミュージアムだと確認することができた。到着すると現地連絡員のプランタムラさんがいた。ダリの作品は彼の人生や人間性と重ねて考えるとさらに面白味が増した。中でも印象に残ったのは、時計が溶けている作品だった。

その後、お昼ご飯を食べに「The Hangar Restaurant」に行った。レストランの近くには飛行場があり、離陸している姿を見ながらご飯を食べることができた。店内には大きな飛行機が展示されていて、とても印象に残った。そこで、セント・ピーターズバーグ市の学校で、日本語を教えているテイラー



ダリミュージアム



庭のオブジェ

さんと出会った。日本語がとても流暢で、僕もこれくらい英語が話せたらいいなと思った。テイラーさんは、サブカルチャーがとても好きだという事もあり、話が盛り上がった。お昼ご飯にワッフルとチキンを食べたが、はちみつだと思ってかけたソースがとても辛くて食べることで頭がいっぱいになった。平然と食べられる人がいて仰天した。コーラの味が日本と比べるとすごく甘くて、違う飲み物のように感じた。エレノアに「ワッフル全部食べないの？」と言われた時は全力で拒絶した。味覚の違いを実体験した瞬間だった。

その後、アザレア レクリエーションセンターに行った。そこでは粘土で手作りのお皿や人形をそれぞれ作った。自分の満足なものが出来上がり、先生からも称賛された。ちょうどその時、キツツキが外の木をつついていて。初めて見たのでとても興奮した。

次にタイロン スクエア モールへ行き、色々見て回った。そこのお菓子屋さんで弟のお土産にサソリ入りのキャンデーを購入した。日本と違ってモールの中はとても寒かった。

その後、20人程の友達とレーザータグというサバイバルゲームのレーザー版のようなものをした。とても盛り上がりたくさんの友達と交流を深める事ができた。

その後、日本料理を食べに行き、エビロールを食べた。それは日本人の僕には、寿司というよりは他の創作料理に見えた。みんなでお箸を使って食べたが、とても上手に使いこなして驚いた。



晩御飯日本料理店

## 7月26日(金)



ホストマザーと一緒にいった朝食のカフェ だった。自分が想像していたより、皆さんの雰囲気良くとても発表しやすかった。その後、お土産屋で少しお土産を購入した。

この日は、すごく早く起床したので、ホストマザーと一緒にカフェに行った。そこでマフィンとコーヒーを飲んで、大きな車が道路を行き交う中、優雅に朝ご飯を食べた。

この日の予定は商工会議所でのプレゼンテーションだ。本番の前に一度練習をしてから現場に向かった。たくさんの方が、僕たちの発表を聞いてくれた。僕は香川の伝統工芸品の「のり染」という染物について発表した。練習をたくさんしたお陰で、発表は大成功



イマジンミュージアム

次にイマジン美術館に行き、たくさんのガラスでできた芸術作品を鑑賞した。中には日本人が作成したものもあった。日本の着物も芸術の一部として展示されていて、日本文化に興味をもってくれている事をとてうれしく感じた。鑑賞した後、近くの本屋に行った。日本と違って古いボロボロ



エレノアの友達

の本も店頭に並んでいた。確認したが古本ではないらしい。日本語の本もあり、意外に売れていた。

次は、スポーツゲームができるお店に行き、そこでたくさん体を動かした。日本でもお馴染みのUno もしたが、少しルールが違って戸惑った。巨大ジェンガ（積み上げた木の板を崩さないように引き抜いていくゲーム）もあり、友達は悪ふざけをして僕たちを笑わせてくれた。

家に帰ると、ペットのマーベリックがリビングのいたる所にウンチをして大騒ぎになり、みんなでとても笑った。この日の夜は、エレノアの友達が家に遊びに来てくれ、みんなで映画鑑賞をし、途中クッキーを焼いたりして楽しんだ。

## 7月27日(土)



Museum of Fine Arts

日本に興味を持ってくれていることがうれしかった。実は、折紙がロシア発祥であること伝えると「日本じゃないの?!」とものすごく驚いてくれ、折紙の事を少し勉強していた甲斐があったと思った。充実した時間だったので気づいた時には終了していて、少し残念でもあった。



ドッグパーク

この日は「Museum of Fine Arts」の折紙ワークショップだ。自分が思っていたより幅広い年齢層の人がたくさん来てくれていた。中にはテレビ放送を見て、来てくれていた人がいて、出演してよかったと思った。僕は折紙で、とても小さい鶴、アメリカ版の鶴や日本古来の様々な種類の鶴の折り方を、現地の人に教えてあげる役目を担った。小さな子供達が鶴を折れるようになった時は、とても達成感があった。他にも、日本がどのようなところなのかたくさん聞かれた。



Pool Party

その後、エレノアと大きな木に登った。その木がインドから運ばれてきた事を聞き驚いた。お昼になって Pool Party に参加した。すべてのホストファミリーが来た。すごく暑かったので、プ

ールでビーチバレーなどをしてとても楽しかった。陽気な音楽が流れて素敵な時間だった。その後、海辺に近いお店でオレオクッキーアイスを食べた。アイスシェアし美味しいランキングをつけあった。結果、バニラアイスが総合優勝だった。

その後、一度休んでペットのマーベリックとドックパークへ行った。駐車場に着くとマーベリックはどこかわかるようで全速力で走って向かった。パークの中にはサイズ等、多種の犬が集まり、楽しそうに目を光らせて走り回っていた。テニスボールを投げると嬉しそうに取りに行き、何度も遊んでほしそうに近づいてきた。他の人が投げたボールにまで飛びつくのもまた可愛かった。

その夜はボウリングに行った。投げた瞬間ガターになったのはがっかりしたけれど、ストライクを取った時は友達みんなでハイタッチをして盛り上がった。

## 7月28日(日)

この日は、ホストファミリーデーだったので楽しみだった。連れて行ってもらった海の砂浜は、小麦粉のようにサラサラしていて歩いていて気持ち良かった。海ではfrisbeeで遊んだり、砂浜に絵を書いたり、海に足を入れて音楽を聴きながらダンスをして盛り上がった。一通り遊んだ後、のんびりした時間をみんなで過ごす、あつという間に時間が過ぎた。夕方にはサンセットも見れ、その情景にとっても感動した。この辺りの天候はすぐ変わるので雷雲が見えた。雷がすぐ近くで鳴った時は、身の毛がよだった。特に自然に触れた一日だった。

周りが暗くなってから、僕たちは海沿いにあるレストランに行った。足元は砂浜になっていて、とても気持ち良かった。そこの料理はよく分からなかったのですが、エレノアにおすすめを聞くと「ハワイツナうどんがおすすめだよ」と言ってくれたので、それを注文した。ツナとうどんの相性がはたして合うのかと料理が来るまで一人で自



海沿いのレストラン

問自答していたが、いざ料理が来ると色とりどりで見た目も良く、食べてみるとうどん自体少し酸味があって、一緒に食べると先にその酸味が来て、後からツナ独特の

味が追いかけてくるように感じ、絶妙にマッチしていた。本当においしかったので、日本でも食べたいと思った。

家に帰るまでの間、車の音楽を大音量にし、歌いながら家に帰った。その音楽のレパートリーの中に米津玄師さんの「Lemon」が入っていて、エレノアがいきなり日本語で歌い始めた時はとてもビックリした。あとから話を聞くと、僕のために日本語で歌を練習してくれていた。二人で「Lemon」を大声で歌ったあの夜は、爽快でとても気持ち良かった。



サンセット

## 7月29日(月)

朝、僕は6時に起きた。そしてセント・ピーターズバーグ市の美しい光景を家の窓からのぞきながら、残りの日数の少なさを残念に思っていた。しかし、どれだけ残念がっても日数は増えないので、残りの日数をいっぱい過ごそうと決心して、僕はリビングに行った。すると、ホストマザーが朝ご飯を作りながら、僕に「あと少ししか一緒にいられなくて残念だわ」と言われてすごく共感したと同時に、僕の事を思ってくれていて感動した。ホストマザーがとても優しく、体調の面はもちろんのこと、アメリカの水は硬水で、日本の水は軟水なので、軟水の水をスーパーで買ってきてくれたりと、本

当に素敵なホストファミリーに出会えて良かったなと思った。

今日はエレノアと一緒にカフェに朝ご飯を食べに行った。そこには他の研修生2人もいたので、みんなでマフィンを食べた。朝に余裕をもってご飯を食べる事はとても清々しいと感じた。

この後、フロリダの市街の壁画アートツアーに参加した。そこには、去年のセント・ピーターズバーグ市の親善研修生のカイ・トマリンさんも一緒に同行してくれた。壁画アートは、ただ描いているだけではなく、その建物の特徴を生かして描かれていたり、その場所の歴史に関わっていたり



壁画アートツアー



道路にあったモニュメント

して、お話を聞いて為になるものばかりだった。セント・ピーターズバーグ市のキャラクターの太陽の絵が描かれているものや、カラフルでずっと眺めていられるものまで、たくさんあった。壁画以外にも、モニュメントやアスファルトまでがカラフルで、陽気な都市だなと実感した。その後、好きなものをオーダーしてカスタマイズして食べることができるどんぶり屋さんに行った。酢飯の名前が「Japan rice」と呼ばれていたのが不思議で、おかしくて笑ってしまった。自分は日本食をカスタマイズして作ったので、あたりはずれなく安心して食べることができた。おいしくいただいた後、みんなでトランポリンをしに行った。エレノアの友達も合流して、みんなでトランポリンを楽しんだ。足の裏がゴム製になっている専用靴下を付けてアクティビティを行った。長時間トランポリンをしてから地面を歩くと、地面がふわふわしている感覚にとらわれて少し混乱した。足に力が入らなくてこのまま歩けなくなるのではないかと思った。

## 7月30日(火)



川遊び

今日は夕方までフリーだったので「rainbow river」という川まで友達と約2時間かけて行った。とても遠かったので自然と車内で流れる音楽の順番を覚えていた。到着すると、かなり山奥だったが、たくさんの人が来ていた。エレノアが言うには「穴場スポット」らしい。泳げる準備をして、その川へ向かった。その場所は川下りをするスポットなので、川の上流までバスで向かわなければならない。また、靴は脱いでいかなければならなかった。しかし、夏で気温も高かったので、アスファルトの上を裸足で歩くのが、地獄にいるくらい熱かった。川は程よく冷たく、とても気持ちが良かった。水の透明度が高く、泳いでいる魚を鮮明にとらえることができた。水に慣れてから浮き輪を使って川下りを始めた。浮き輪と浮き輪を縄でつなぎとめて、みんなで川下りをした。白石さんの白鳥の浮き輪があまりにも大きすぎて、木に引っ掛かって動かなくなった時は心配をしつつも、とてもおもしろかった。また、日焼け止めを塗ってきたつもりが、間違えてサンオイルを塗ってしまったので肌がとても

黒くなってしまった。約30分間川を下った。その時間交わした些細な会話は普通だっただろうけど、僕にとってはとても特別なものになった。川を下りきるとちょうどお昼だったので、ワニ肉が食べれるというお店に行った。しかし、少し食べるのに抵抗があったので王道のハンバーガー&フライドポテトを注文した。驚いたことに、ワニ肉のお店で誰一人ワニ肉を食べなかった。



一緒に同行した友達

その後、夕食をSPIFFSで行われるフェアウェルパーティ(送別会)で食べることになっていたのので、急いで車で向かった。到着した時には、既にたくさんの方がいた。浴衣で行く事を研修生3人で決めていた。集合場所に向かうまで、周りの方の反応が気になったが、自分が思っていた以上に好評だったのでうれしかった。そこで僕たち3人は、皆さんを前に最後の高松市のプレゼンテーションを行った。一度行っていることもあり、スムーズに行うことができた。僕たちの他に、出し物をしている人もいた。特にギター演奏の出し物は心が弾んだ。出し物が一段落終わり、雑談タイムになった。僕はその時にけん玉でいろいろな技を披露して、とても盛り上がった。初めてけん玉をたくさん練習してよかったなと思った。研修生の菅君は書道でパフォーマンスをしていた。みんな自分の名前を書いてほしくて予約が殺到していた。浴衣姿に書道は似合っていた。そうして夜遅くまで賑わった。

その後、テイラーの家にある天体望遠鏡で星を観察しに行った。かなり本格的な望遠鏡だったので、星をととても間近で見ることができた。その後に映画鑑賞をしたが、あまりの眠たさに家に帰って寝ることにした。

## 7月31日(水)

4時45分にタンパ空港に集合し、出発準備をしていた。このたった10日間だったけれど、いろいろなことを学んだ。本当にホストファミリーと家族になったようだった。我が子のように扱ってくれて幸せだったし、正直日本に帰りたくなかった。最後の別れには、みんな涙ながらに見送ってくれた。死ぬまでに必ず戻って、いつかどこかで、また出会うことを約束して別れを告げた。セント・ピーターズバーグ市は私の第2の故郷だと思った。



お別れ

## 8月1日(木)

午後6時頃、約27時間かけて高松空港へ到着した。

帰ってきた安心感と、帰ってきてしまった寂しさが交互に僕を襲ってきた。またいつか出会うことを約束した以上、いろいろなことを頑張らないといけないと思う。今、自分自身ができることをフルに発揮して、さらに成長したいと思った。



## 感想文



香川県立高松西高等学校 2年  
大岡 育之助

### 発見ばかりの10日間

セント・ピーターズバーグ市で行った研修は、自分が思っていた以上に充実したものであった。現地でうまくコミュニケーションをとることができるのかとても心配だった。いざネイティブと会話してみると、学校で勉強している英語とは、まるで別物のように違っていた。これは実際に行ってみないと日本では到底気づくことは難しかったし、僕の中で大きなものになった。しかし、そんな環境の中でもホストファミリーとは、一緒に食器洗いなどのお手伝いをしたり、近場のおすすめの店に行ったり、僕を本物の家族のように扱ってくれ、また現地の人と同じ日常を送ることによって、文化の違いやフレンドリーさ、そして自分がどれほど偏った考え方をしていたのかに気付くことができた。

今回の研修では違った視野や物の見方、価値観を持つこともできた。現地で会話している中で、その発想は日本には無いと驚くことや、そんな角度からの考え方もあるんだと感心させられることが多々あった。特に気づかされたのは、自分の国に対する無知だった。研修中には、日本の事に対して聞かれる場面がたくさんあったが、十分に答えることができなかった。自分の国について知ることは、僕にとっても異文化交流にとっても大事だという事につくづく気づかされた。僕はたくさんの地域の文化に触れたいと思っているが、それ以前に、高松の魅力や日本の文化について勉強する必要があると思った。

最後に、この研修を思い出として終わらすのではなく、新たなステージにステップアップできるように日々努力していこうと思った。

# 親善研修生 報告書 II



## 日誌・活動記録

高松第一高等学校1年 白石 萌絵

### 7月22日(月)

ずっと待ち望んでいた日がやって来た。私はパスポートがあることを何度も確認し、家族に別れを告げて家を出た。私は海外が初めてで、ましてや家族と11日間も会わないことは、初めてなので不安もあった。高松空港に着くと、今からアメリカに行くという実感がわいてきて、楽しみな気持ちが増した。

高松空港から羽田空港までは、1時間半くらいのフライトだった。その間私はずっと映画を見ていたが、久しぶりの飛行機という事もあり、途中から飛行機酔いで頭が痛かった。

羽田空港からシカゴ空港までは約12時間もあり、とても大変なフライトだった。しかし、飛行機の窓から、アメリカ本土が見えた時は、広大な大地と平たんさに本当に感動し、とても嬉しかった。シカゴ・オヘア空港に着くと、まずそのスケールの大きさや、トイレの違いに驚いた。トイレトペーパーの大きさが日本の一般的な大きさの約2〜3倍の大きさだった。また、シカゴ・オヘア空港の天井は、とてもカラフルでオシャレだった。私は人生で初めての入国審査を受けた。入国審査は、機械で行ってから係員の人が確認するというしくみだった。機械ではかなりてこずり、2回ほどタイムアップになり、何度かやり直さなければならなかった。係員の人の質問にきちんと受け答えできるか心配だったが、無事に入国することができた。その後は、保安検査が待っていた。高松空港や羽田空港で



シカゴ空港

もしていたので、同じような感じだと思っていたが少し違っていた。手荷物検査は同じような感じだったが、ボディチェックが通り抜けるだけでなく、カプセルのような物に入り、両手をあげ、靴を脱いだ状態で体全体をスキャンされるというしくみだった。日本より嚴重だなという印象を持った。

タンパ空港まで時間があつたので、シカゴ空港の中の店で何か食べようと店をたくさん見て回ったが、結局マクドナルドでハンバーガーを食べた。

タンパ空港に着くと、ホストファミリーたちが「Welcome to St. Petersburg」と書いた横断幕を持って出迎えてくれたので、すぐに見つけることができた。セント・ピーターズバーグ市の親善研修生であり、2週間前に我が家にホームステイしていたテイラーの顔を見たときはとても安心した。私を受け入れてくれるジョンソン一家は、テイラー、ホストファザーのビル、ホストマザーのショーン、ホストシスターのクロエだ。私はテイラーからバラの花をもらい、テイラーの親友のエミリーとともにショーンの運転で家へ向かった。日本とは違い右車線だったので違和感を覚えた。

家に着くと犬のルナが私を出迎えてくれた。晩ごはんは海がとても近くにあるピンクのホテル「ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテル」で食べた。私はテイラーのおすすめのハンバーガーを食べた。中のハンバーグがとてもジューシーでおいしかったが、量が多く食べきれなかった。

今日はとても疲れたので、シャワーは明日の朝浴びることにし寝た。

## 7月23日(火)



セーリング

昨日は、とても疲れていたものでぐっすり寝ることができた。今日は午前中、ずっと楽しみにしていたセーリングをする予定だったので、朝6時50分起きだったが、全然苦に思わなかった。シャワーを浴び、リンゴとシリアルを持って家を出た。天気が悪かったらできないかもしれないと言われていたので、ずっと心配だったが、幸い晴天だった。テイラーとテイラーの親友のエミリーとともに海に出た。風があまりなかったので、ヨットは速く進まなかったが、海がキラキラと輝き、空もとても広く感じた。テイラーとエミリーはイルカを見たいが、私は見逃してしまった。

テイラーがよく行くスムージーの店に連れて行ってくれた。私は、マンゴーの味がする物を選んだ。冷たくとてもおいしかったが、日本ではありえない大きさで驚いた。

昼ごはんはタコスを食べた。自分で具材を選ぶことができたので、私はチーズと牛肉を選んだ。今まで食べたタコスの中で一番おいしかった。朝ご飯が少なく物足りなかったなので、同じ研修生の菅くんと大岡くんのタコスももらった。

その後、市長表敬へ行った。現在、市役所は建て替え中のため、旧警察署が一時的に使われていた。市長のリック・クライスマンさんは、笑顔で私たちを歓迎してくれた。セント・ピーターズバーグ市のおすすめの場所や人口など、たくさん話をしてくれた。市長はとてもフレンドリーな人で、終始笑顔だった。

その後、セント・ピーターズバーグ警察本署へ行った。最近建て替えたばかりで、とてもきれいだった。ほとんどの部屋は、カードキーで入るようになっており、厳重な警備だと思った。また、通信指令室の机は立って仕事ができるように、高さを変えられる仕組みになっており、とても驚いた。

私と菅くん、大岡くん、テイラー、親善研修生のエレノア、エレノアのボーイフレンドのシッドの6人でパットゴルフをした。ホールごとに回り、打数を競い合った。パットゴルフは初めてで、力加減が難しくなかなか思い通りに入らなかった。しかし、一度ホールインワンすることができ、とてもうれしかった。また、コース内の池にいるワニに餌をやった時、私の釣竿にワニがひっかかってしまった。1分ほどワニとつな(釣竿)引きをした後、やっと離れてくれて、ほっとした。みんな大爆笑していたが、私はヒヤヒヤしていた。

帰宅後、テイラーと二人でテレビを見ながら夕食を食べたが、ラタトゥイユが日本のものと違っていた。私は、これもおいしいと感じた。



マンゴースムージー

## 7月24日(水)

今日は、折紙ワークショップについてのテレビインタビューの日だったが、思わぬハプニングが起きた。集合時間の20分前くらいに家を出る予定だったが、テイラーが集合時間の5分前に起きたことだ。私たちは急いで家を出た。途中、テイラーは縁石のような物に車をぶつけてしまった。



テレビ局のスタジオ

う表示が出ると、レイズファンが声を揃えて叫んだ。会場が一体となっている気がした。ヒットやホームラン、好プレーを間近で観ることができ、とても興奮した。試合はレイズの勝ちだった。私の後ろに座っていたレイズファンの人とも仲良くなり、一緒にハイタツ



野球観戦



ビリヤード

菅くんが質問に答えることになったので、私と大岡くんは鶴を折ることになった。全部で4分くらいのカットだった。私は折るだけだったが、キャスターが何を言っているのか、早すぎて全然分からなかった。テイラーが私のために、いかにゆっくり話してくれているか分かった。そして、今の英語力では全然通用しないと思い知り、悔しかった。

その後、私たちはタンパベイ・レイズの野球観戦のためにトロピカーナ・フィールドへ行った。私たちは、レイズの帽子をかぶり応援した。「Let's go レイズ」とい

ちをして喜んだ。家に帰って少しゆっくりした後、私たちはビリヤードをしに行った。私は初めてでルールさえ分らなかったもので、シッドに詳しく教えてもらった。なかなか上手にいかず、何度も白い球を穴に落としてしまった。私たちはそこで、早めの晩ごはんにはピザを食べた。ピザはとても大きく脂っこかったため、1ピース食べただけでお腹がいっぱいになった。帰りにお菓子を買うために、スーパーマーケットに連れて行ってもらった。キットカットが売ってあったので、私はそれを選んだ。形は日本の物とほぼ同じだが、個包装ではなく大袋にそのまま入っていた。私、大岡くん、菅くん、テイラー、エリー、トゥーエン、ナサニエルでテイラーの家の大きなプロジェクターで映画を見た。私は疲れていたもので、初めから最後までずっと寝ていた。

## 7月25日(木)

今日は、10時からダリ美術館に行く予定で、朝8時半くらいに起きるつもりだったが、鳴り響く雷の音で7時半に起こされた。

ダリ美術館では、現地連絡員のプランタムラさんが、一つ一つの絵について詳しく教えてくれた。階段1つにしる、らせん状に造られており、とても幻想的だった。美術館の中は冷房がとても効いていて、とても寒かった。

ダリ美術館の中にあるお土産屋さんには、珍しい物がたくさん売ってあった。私はお湯を入れると色が変わるマグ



ダリ美術館

カップとトランプを買った。

今日はウェルカムランチで、ザ・ハンガーレストランというアルバート・ウィテッド空港にとっても近いレストランで食べた。私は、エリーおすすめのワッフルチキンを食べた。ワッフルの上にチキンがのってあり、その上からシロップをかけたものだ。おいしかったが、とてもボリュームがあったので、途中から味がしつこくなってきた。しかし、頑張って全部食べきった。

昼食が終わるとアゼレアレクリエーションセンターに行った。私たちはそれぞれ自分自身の陶器を作った。私はカタカナで自分の名前をかいたプレートを作った。焼くのに時間がかかるので、完成したら日本に郵送してくれるみたいだ。

その後、タイロンスクエアモールへ買い物に行った。私をテイラー、エレノア、今日から合流した親善研修生のレイラが、私をおすすめの店に案内してくれた。私はTシャツ、バスボム、ペンなどたくさん買った。店やレストランに行くと驚いたことのひとつは、店員さんがとても愛想が良いことだ。レジで会計を待つ時必ず話しかけられる。たとえば、「Hello!」「How are you?」「Where are you from?」などだ。そして最後は、「Have a good day!」や「Have a good afternoon!」などで締めくくられる。これも文化の違いなのだなと感じた。また、とても友好的で良いなとも感じた。



レーザータグ

たくさん買い物をした後は、レーザータグをした。レーザータグとは、光線銃を使用したサバイバルゲームのことだ。エレノアの友達がたくさん来ていたので、総勢18名で3グループに分かれて撃ちあって遊んだ。私は道具の使い方もルールも分からず、はじめの方はずっと逃げ回っていた。しかし、ルールが分かるにつれてとても楽しくなってきた。最終的には私たちのチームが勝った。みんなとても盛り上がり、とても良い経験になった。国籍や男女を問わず、たくさんの友達を作ることができた。

そのメンバーで寿司を食べに行っただが、私は昼ご飯を食べすぎていたので、リンゴジュースだけを頼んだ。後から、アメリカの日本食を少しでも試せばよかったと悔やんだ。菅くんと大岡くんによると、日本の日本食とアメリカの日本食は全く違うらしい。

家に帰ると倒れるようにしてベッドに入った。

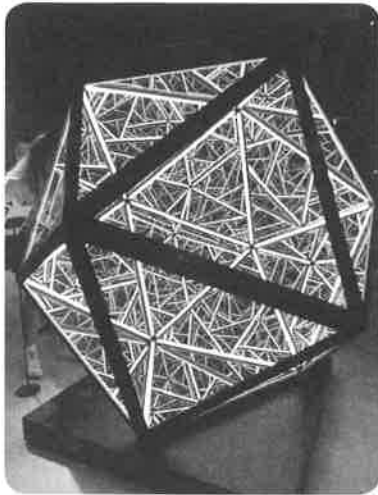
## 7月26日(金)

昨日疲れすぎて、シャワーを浴びることができなかったので、6時半に起きてシャワーを浴びた。

今日は商工会議所でプレゼンテーションをした。私は、栗林公園の概要を説明して、四季折々の魅力等を伝え、それを商工会議所の方たちが相槌を打ちながらきいてくれた。私の伝えたいこともしっかり伝えることができ、最善を尽くせたので私は満足した。その後の質疑応答の時間で、私の将来の夢のことやアメリカの良いところなど、いくつかの質問を受けた。言いたいことはたくさんあったのだが、すべてを英語で説明することができず、とても悔しい思いをした。自分が情けなくて、気が付くと涙が溢れていた。私は、自分の英語の語彙力のなさや未熟さを改めて実感した。



商工会議所でのプレゼンテーション



イマジンミュージアム

その後、イマジンミュージアムへ行った。ガラスの作品がたくさんあり、どれも幻想的で素晴らしかった。私たち研修生は、大仏の頭像が千体並んでいる作品に少し恐怖を感じた。一緒に来ていた日本語講師のテイラーさんの6歳の娘のスカーレットがとてもかわいらしく、私になついてくれて手を繋いで作品鑑賞した。

午後からはビーチ散策の予定だったが、雨が降っていたので私、菅くん、大岡くん、テイラー、エレノア、レイラ、エレノアの友達の計10人で、ジェンガ（積み上げた木の板を崩さないように順番に引き抜いていくゲーム）やサッカーボードゲームをした。白熱したゲームを楽しみながらも、みんなとても優しく分かりやすく教えてくれ、たくさん笑わせてくれた。私はこの仲間たちが大好きになった。



ジェンガ

## 7月27日(土)



折紙ワークショップ

今日は「Museum of Fine Arts」で折紙ワークショップをした。ここでは、私たち高松市親善研修生が日本の鶴の折り方を教えた。大勢の人とコミュニケーションをとることができ、とても有意義な時間だった。とても楽しかったので、2時間があっという間に過ぎた。私はもっと一緒にいたいと感じた。また、驚いたことに母校の協和中学校にALTとして赴任していたクリストファー先生がいたのだ。先生は私に「お久しぶりです。」と日本語で声をかけてくれた。先生が私のことを覚えていてくれたことと、英語の上達を褒めてくれたこと、それから先生は、高松が恋しくていつか高松に帰りたと言っていたことが、私にとっては非常に嬉しかった。そして、私は高松を誇らしく思った。

昼からはプールパーティーだった。1日目の晩ごはんを食べたホテルで開かれた。両市の研修生だけでなく、アレックスやトゥーエン、ナサニエルも一緒に泳いだ。プールの中で大きなボールでバレーボールをしたのが楽しかった。その後、私たちはセント・ピート・ビーチへサンセットを見に行った。私はセント・ピーターズバーグ市に行ったら、サンセットを見たいと思っていたので、ずっと楽しみにしていた。セント・ピート・ビーチのサンセットは格別だった。島が無いので果てしなく水平線が見え、そこに沈んでいく夕日は、言葉では言い表せない程綺麗だった。空はオレンジ色に染まり、カモメがたくさん飛んでいた。また、驚いたことにビーチの砂がとても柔らかかった。私は心と目にしっかり焼きつけた。あの景色は一生



サンセット

一生





タコスとポテト

忘れないだろう。

海が近くにあり、たくさんボートがとめられてあるゲートウェイレストランに夕食を食べに行った。私はまたタコス頼んだ。毎回ついてくるポテトの量が多くて食べきれないので、私が困っていると、そのたびに店員さんが「持ち帰りますか？」と聞いてくれ、イエスと答えるとパックをくれることが、日本ではないサービスなので驚いた。

家に帰ってから、テイラーと一緒に映画を観てから寝た。

## 7月28日(日)

今日はホストファミリーデー。

朝からアクシデントがあった。テイラーの運転している車が信号待ちの際に追突されてしまったのだ。テイラーが相手の女性と話したが、相手の女性は「あなたと話す事は何もない」と言って去って行ってしまったのだ。私は驚きと憤慨と何もできない悔しさに、涙があふれ出てきた。テイラーは、車の車種とナンバーや女性の特徴を覚えていたので、警察を呼び事故検証をした。私は、少しでもテイラーの力になりたかったが、私の英語力では説明する事もできず、とても悔しい思いをした。その後、持ち主が特定された。



ヒトデに寄ってくるルナ

昼は手羽先(チキン)を食べてから、テイラーたちとプールに行った。実は私の水着の1部分が足りず、テイラーと一緒に探してくれていたのですが、私はあまり泳げなかったのだが、水着が見つかった後に行ったドッグビーチではたくさん泳いだ。ドッグビーチでは、テイラーの愛犬ルナとエレノアの愛犬も一緒に海に入り、思いきり楽しんだ。ルナは、私になついてきてとても可愛い。私が「ルナ!」と名前を呼ぶと、犬かきで素早く寄ってくる。ルナは、私の背中に乗ってこようとするが、それは爪が当たって痛いので少し苦手だった。日本には、こういうビーチがあるのかどうか私は知らないが、犬好きな人にはたまらない、とてもいい場所だと思った。

夕食は、テイラーが家で作ってくれた。日本のごはんとは少し違っていたが、私は久々に白ごはんを食べることができて、おいしいと感じた。

## 7月29日(月)

今日の朝食は、たくさんヤシの木が生えているカフェで、両市の研修生6人で食べた。私はコーヒーが飲めないの、リンゴやレモン、キュウリが入っているジュースとクロワッサンを食べた。クロワッサンは、日本のものとほとんど変わらずおいしかった。しかし、ジュースはキュウリの味がききすぎていて苦手な味だった。リンゴジュースと聞いていたので、飲んだ時はびっくりした。テイラーも私のジュースを試してみたが、苦手だったようだ。

今日は、壁画アートツアーをした。去年の研修生のカイくんもきていた。晴天の中の壁画アート見学は、汗が止まらなかった。しかし、色々な絵を見ることができて楽しかった。中には、私の知っ

ているスポンジボブやドナルドダックの壁画もあった。テイラーと一緒にたくさん写真を撮ることができた。私が、「日本で壁に絵を描くと警察に捕まります。」というと、みんな笑ってくれた。昼食に食べた自分の好きな物を選んでのせた井ぶりは、思っていたよりも辛く、半分くらいしか食べられなかった。テイラーは一口食べた時点で辛すぎて涙が出ていた。

その後、私、菅くん、大岡くん、テイラー、エレノア、レイラのボーイフレンドのジャスティンの6人で、ビーチの真横に建てられた店



私の宝物

で買い物をした。私は、亀の形をしたキーホルダーと、真横のビーチの砂が入ったキーホルダーを買った。店の中でテイラーが「マーメイドは日本語でなんて言うの？」

「ドルフィンは日本語でなんて言うの？」とたくさん質問してくれた。日本に興味を持ってくれているように感じ、とてもうれしかった。その後、私たちはアイスを食べた。私はマンゴーアイスのスモールカップを選んだが、これもまた大きかった。

帰りにビーチに寄ってくれた。テイラーが撮ってくれたチェキの写真は、私の宝物だ。セント・ピーターズバーグ市のビーチはいつ行ってもきれいで心を奪われる。島がなく水平線を見ることができ、空がとても大きく感じられる。高松では見ることのできない景色だ。

瀬戸内海とは、また違った良さがある。

その後、「スカイ・ゾーン」というトランポリンアクティビティの施設へ行った。辺り一面がトランポリンで埋め尽くされていた。テレビ番組のSASUKEで見る様なものもあり、とてもテンションが上がった。こんな施設が日本にもあったら良いのに、と思うほど楽しかった。

今日の晩ごはんは、テイラーが作ったタコスだった。この日、初めてテイラーの両親と一緒にご飯を食べた。ずっと家族と一緒に食事をしたかったので嬉しかった。今日あった事などをたくさん話した。翌日私を連れて行く場所をめぐって、テイラーとテイラーの両親とで口論になり、少し申し訳ない気持ちになった。しかし、3人とも最終日を私に楽しんでもらいたいと同じように思っていることが、話の内容からとても伝わってきた。明日の朝は早いので今日は22時頃に布団に入った。



壁画アートツアー



スカイ・ゾーンのトランポリン

## 7月30日(火)

6時半起床。今日は、朝早く起きてレインボーリバーへ行った。レインボーリバーまでは片道2時間。今日はアメリカで過ごせる最後の日だったので、テイラーとたくさん話そうと思っていた。車の中で今日の送別会をするプレゼンを聞いてもらったり、英語と日本語の違いについて話したりし、退屈することなく2時間を過ごした。テイラーが時間を勘違いしていたため、集合時刻よりも1時間も早く着いた。浮き輪をふくらませる道具を持っていなかったため、みんなを待つ



レインボーリバーで川下り

白鳥の首から頭部が垂直に立っている大きな浮き輪だった。みんなで浮き輪をロープでつなぎ、川下りをし始めているのに、私の白鳥号は、大きくて重いせいか全然進まない。しかも動いたかと思いきや、白鳥の頭部が木に引っ掛かり、動かなくなってしまった。それを見つけたジェイミーが、泳いで私を助けに来てくれた。ジェイミーのおかげでみんなと合流し、ほっとしていると、私がまた離れていかないようにジャスティンがずっと白鳥の羽を握っていてくれた。とても優しい友達ができ、本当にうれしかった。

今日の昼ごはんがテイラーたちと食べられる最後の昼ごはんだったので、しっかり記憶に焼きつけておこうと思い、再びハンバーガーを頼んだ。今回はオープンハンバーガーだったので、ナイフとフォークを使って食べた。

帰りの道中、日本では経験したことのないほどの激しい雷雨に遭い、私は車内でおびえていたが、運転しているテイラーはまったく動じていなかった。2分後に雷雨はピタリとおさまり、青空が見えてきて驚いた。後からテイラーに聞くと、このようなことはよく起こるらしい。

家に着くと、急いで浴衣に着替え送別会に向かった。

送別会での最終のプレゼンテーションは、パソコンの操作が上手にいかず、何度か中断して苦戦した。有終の美を飾りたかったのですが、とても残念だった。テイラーの姉のクロエも来ていたので3人で写真を撮った。最後なのでたくさんの人と写真を撮った。また、私はけん玉を持って行っていたので、披露したり、教えたりした。テイラーに「送別会の後、何したい？」と聞かれたので、私は「あなたと一緒に過ごしたい。」と言った。私はみんなに別れを告げて、送別会を後にした。テイラーとクロエと一緒に、テイラーがアルバイトするアイスクリーム屋に連れて行ってもらった。量り売りのような感じで、自分の好きなアイスに自分の好きなトッピングをした。とても甘かったが美味しかった。



テイラーとクロエ

ている間ずっと自分たちの息でふくらましていた。大きな浮き輪を3つもふくらませるのに、時間と体力がもつか心配だった。両市の研修生を含む12名が集まり受付に行くと、浮き輪をふくらませる道具があり、私はずっこけそうになった。自力でふくらませたことは黙っておくことにした。

レインボーリバーの川の水は見たことがないくらい透明で、川底の砂や泳いでいる魚を見ることができくらい綺麗だった。また、その水の温度は、想像をはるかに超える冷たさで、日本の温泉の水風呂のようだった。私は足を付けた時点で水から上がりたいたい気分だったが、みんな入っていたので少しだけ頑張ってみた。少し水遊びをした後、私たちはそれぞれの浮き輪で川下りをした。みんな丸い普通の浮き輪を使っている中、私はテイラーが頑張ってふくらませた白鳥の浮き輪を選んだ。その浮き輪は二人乗りで、



オープンハンバーガー

私はテイラーとテイラーの家族が大好きだ。お父さんもお母さんも優しく、日本ではあまりしないハグをしてくれる。お母さんが私のことを「sweet girl」と呼んでくれるのが、毎日とても

嬉しかった。もう最後の日なのだと思うと、とても悲しくなった。お土産もいろいろいただいた。

明日の朝は、出発時刻が早いので、先に荷造りをさせてもらった。しばらくすると、テイラーの家にエミリーやエレノア、友達がたくさん集まってきて、みんなで天体観測をしたり、顔にパックをしたりして遊んだ。最後の夜まで、こうやって仲良くなった友人たちと楽しく過ごせることは、本当に私は幸せだと感じた。一緒にいることができる最後の夜なので、みんなで徹夜しようとなんばって起きていたが、気が付いたらソファの上で寝てしまっていた。

## 7月31日(水)

いよいよ最終日。あろうことに、私は寝坊をしてしまった。

集合時刻の5分前に家を出て、テイラーとエミリーにタンパ空港まで送ってもらった。きちんとお礼を言って別れを惜しむ余裕がなく、飛び出すように家を出てしまい、後悔が残った。集合時刻には遅れたが、なんとか集合場所にたどり着き、搭乗手続きをした。

最後の別れの時には、テイラーと抱き合っ、しばらく2人で泣いてしまった。この10日間があまりにも楽しく充実していたので、正直、帰りたくないどころか、住みつきたい気持ちでいっぱいだった。

出国の荷物検査の際、テイラーのお父さんがお土産にくれた石（サメの歯の化石）やテイラーのお母さんが持たせてくれたリンゴやオレンジがひっかかるのではないかと心配していたが、無事に通過できてほっとした。

## 8月1日(木)

タンパ空港を出発してから約1日かけて、ようやく高松空港に着いた。母の顔を見ると安心した半面、現実が見えてきた。長旅でとても疲れていたが、アメリカでの経験を話したい思いであふれていた。高松空港の待合所でしばらく話し込んでしまった。

## 感想文



高松第一高等学校 1年  
白石 萌絵

### 気づき

「萌絵、あなたは、なぜ何度も“Sorry (すみません)”と言うの？」私はテイラーに聞かれた。私はこの問いに対して、あの時は答えを見つけることができなかったが、これは日本の文化なのだとは今分かる。普段、私がよく使っている「よろしくお願いします」という言葉も、英訳できないことも初めて知った。私はこの10日間のアメリカでの生活で、多くの違いに気づき実感し、そして学んだ。

まず1つ目に私が驚いたのは、アメリカ人のフレンドリーさだ。私は、アメリカで約20人の友達ができ、セント・ピーターズバーグ市の研修生の友達がほとんどだが、彼らとボウリング、パットゴルフやショッピングをしたりして、毎日一緒に時間を過ごすにつれて次第に仲良くなり、私は彼らが大好きになった。アメリカ人は男女や国籍を問わず、とても親切にしてくれる。見ず知らずの人でさえ、車の誘導をしてくれたり助けてくれるので、心から楽しい時間を過ごすことができた。日本では短期間で、ここまで仲良くなれないだろう。遠慮があったり、自分の感情を出さないからだ。それは日本特有の奥ゆかしさであり、トラブルにならない良い所でもある。

2つ目に驚いたのは、アメリカ人が、とても強い愛国心を持っているということだ。アメリカの国旗のイラストのあるTシャツを着ている人が普通に多くいるし、祝日でもない普段から国旗を家に掲げるのは、本当にアメリカという国のことを誇りに思っているのだと感じた。日本では国旗の入った服はほとんど着ないし、祝日に国旗を掲げる家も、今では少ないと思う。

3つ目に驚いたのは、アメリカ人からの日本の評価が高かったことだ。「私は日本に行ったことがあるけれど、日本人はとても礼儀正しく、日本は美しい国だ」と言ってくれるのを聞くと、とても嬉しかった。日本人である自分のことを誇らしくさえ感じた。私は外国から見た日本というものをあまり意識していなかったが、日本人は自国にもっと自信を持って良いのではないかと感じた。

このほかにも、生活習慣や運転できる年齢など違いはたくさんあったが、一つ言えることは「Thank you」の気持ちを家族、友人、店員や関わってくれる人たちに伝えることはとても重要で、気持ちのよいものだという事だ。アメリカであっても日本であっても、「Thank you」は、笑顔を生み出す言葉だ。私はこの素晴らしい言葉をもっともっと使っていきたい。それと同時に、私は自分の英語力の低さを痛感してきたので、もっと英語の勉強をしてレベルアップして、セント・ピーターズバーグ市の友達に会いに行きたい。

最後に、この夏、かけがえのない体験を共にした研修生の仲間、サポートしてくれた家族、そして高松市国際交流協会の方々に心から、Thank you so much !!

# 親善研修生 報告書 Ⅲ



## 日誌・活動記録

香川県立高松高等学校1年 菅 凜太郎

### 7月22日(月)

約2ヶ月間、5回の事前研修を経て、研修生として認められた私たちは、各自、自分自身の目標を持って高松空港に集合しました。海外に行ったことがある経験も少なく、ましてや家族から長い間離れて海外に行ったことのなかった私は、緊張すると共にとても興奮していました。私は家庭の方針で毎年約2日間、自分の家に様々な国から青年がホームステイをしに来ています。そのお陰で、外国の人と英語で交流する機会は沢山ありました。しかし、自分の英語力が足りず、これまで何度も悔しい思いをしてきました。そこで私は今回の研修を通し、自分に欠けている積極性と英語力を向上させ、「自分の将来の夢である海外で薬について研究する」という目標に少しでも近づくことを心に刻み、セント・ピーターズバーグ市に向け



シカゴ空港での集合写真

て出発しました。

日本時間の朝に出発し、アメリカの現地時間の同日の夜に到着したので、長いフライトや、待機時間でへトへトになりましたが、ホストファミリーや、SPIFFS(セント・ピーターズバーグ国際民族会)のロッタさん、セント・ピーターズバーグ市の市役所の職員さんなどの皆さんが、笑顔で迎え入れてくださったので、安心感に包まれました。

私のホストファミリーであり、セント・ピーターズバーグ市の研修生であるレイラの家族は、コキナ・キーというセント・ピーターズバーグ市のダウンタウンから、車で約10分の小さな島(陸続き)にある集団住宅地のようなところで、レイラ、レイラの母、レイラの叔父の3人で暮らしています。そして、私がレイラの家でお世話になる間だけ、特別にレイラの祖父も来てくれました。レイラの家



機内で睡眠中の大岡くんと私

系は、フィリピン系で同じアジア系ということもあり、話しやすかったです。

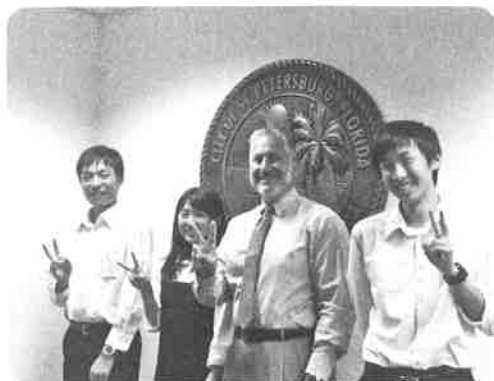
この日は疲れていたもので、すぐに寝てしまいました。

### 7月23日(火)

この日の研修は、市長表敬、市役所見学の後、警察署見学でした。私たちがセント・ピーターズバーグ市に行ったときは、市役所を新しく建設していたので、旧警察署がセント・ピーターズバーグ市の市役所として使われていました。セント・ピーターズバーグ市での市長表敬は、高松市長に表敬しに行くときよりも緊張しました。一番心配していたことは、市長さんが言っていることを自分が理解できるかということでした。しかし、そのような心配も不要で、市長さんは、とてもフレンドリーで話しやすい方でした。高松市からのお土産にも喜んでくださって、とても明るくて優しい方でもありま



した。その後、セント・ピーターズバーグ市の警察署の見学に行きました。この警察署は、つい最近建てられた施設らしく、とても頑丈に作られていました。フロリダ州はハリケーンがよく来る州として有名です。アメリカ合衆国のなかで一番落雷の数が多い州ということも聞きました。この警察署は一番強いレベルのハリケーンにも耐えられるようになっており、地域住民たちの避難場所にもなっています。警察署長さんの話を聞いた後、コールセンターの見学に行きました。日本のコールセンターとは違い、座って作業するのが疲れたら、立って作業できるように、机が上にあがる仕組みがあるということにとっても驚きました。後日



リック・クライスマン市長と



パットゴルフ中の1枚

ほとんど毎日 23 時ぐらいに家に帰ったりしていました。

分かったことですが、この仕組みは主流らしく、ストレスの軽減や集中力が回復したりするらしいです。そして、色々なオフィスなどで、上がり下がりする机を見かけました。このような机を日本にも取り入れてほしいなと思いました。

多くの警察官の方々にお世話になりましたが、一番印象的だったところは、警察官の方々の親切さでした。私は警察官と聞くと、少し怖いイメージがありましたが、セント・ピーターズバーグ市の警察官の方々は、地域の人たちにとっても優しくて頼もしい人たちばかりだなと思いました。

研修後は、セント・ピーターズバーグ市の研修生やその友達のみんで、パットゴルフをしに行きました。気づけば 22 時過ぎぐらいまで遊んでいて、ホストファミリーが心配しないかなと思っていましたが、アメリカでは、夜遅くまで外で遊ぶのは普通のことらしく、

## 7月24日(水)

この日の研修は、WFTS-ABC Action News というテレビ番組で、私たちが研修として行う折紙ワークショップについてのインタビューの後、タンパベイ・レイズという地元の野球チームの野球観戦をするというものでした。

テレビ局に行く途中の車の中で、ロッタさんに誰がインタビューを受けるのかと聞かれ、私達は、3人でインタビューに答えるのだと思っていたので、困惑しましたが、私の目標でもある、「何事にも積極的に取り組む」を達成するために、立候補しました。大岡くんと、白石さんも納得してくれたので、勇気を出して、ロッタさんに僕がやりますと言いました。テレビ局に着き、テレビ局の職員さんに案内してもらい、待合室で待ちました。とても緊張しましたが、しっかりと折紙のことを宣伝しようという気持ちで撮影に臨みました。



テレビ局での集合写真

結果は散々でした。必死に司会者が言っていることを理解しようとしたのですが、とても早口すぎて、僕の英語力では到底理解できるものではありませんでした。せっかくのチャンスを無駄にしてしまった



テレビインタビュー本番前

私は、とても情けない気持ちになりました。反面、また同じような思いをしないように、英語の勉強をもっと頑張ろうと思いました。

テレビインタビューの後、地元のチームであるタンパベイ・レイズとボストン・レッドソックスの試合の観戦に行きました。日本でも野球観戦は高校野球しか行ったことがなかったので、スケールの大きさとファンの熱中具合に圧倒されました。そして、応援していた地元のチームが試合に勝った時は、とても興奮しました。

野球場で昼食を買ったのですが、この野球場はクレジットカードしか使うことができませんでした。このようなことは、日本ではあり得ないことだと思いました。しかし、決して野球場が不親切という訳ではなく、アメリカではほとんどの人がクレジットカードなどを使い、多額の現金を持ち歩いている人はほとんどいないので、不親切なのではなく、普通のことなのだと思い、文化の違いを感じました。

## 7月25日(木)

この日の研修は、ダリ美術館を見学し、小さな空港の横のレストランでのウェルカムパーティーに行き、その後、粘土でアート作品を作り、ショッピングモールでお買い物をするというものでした。



巨大なダリの髭の像

この日は、朝早くに雷の音で目が覚めました。朝食を食べた後、僕にとってのビックイベントであったダリ美術館の見学へ行きました。昔から美術館を巡ったり、美術作品を観賞したりすることが好きだったので、とても楽しむことができました。あまりダリについて詳しく知りませんが、ガイドをしてくださった現地連絡員のプランタムラさんのおかげで、ダリの一生を知ることができたと共に、作品のコンセプトや面白いところを知ることができて、とても充実した時間になりました。その後のウェルカムランチで、チキンワッフルという、ワッフルの上にフライドチキンがのっているアメリカの料理に挑戦してみました。味

はとても美味しかったのですが、量が物凄く多く、全て食べることができませんでした。

次に、ショッピングモールでは、2階建てで以外と小さいのかなと思っていましたが、日本のショッピングモールとは比べ物にならないぐらいの土地の広さで、階数は関係なく、お店の数などは圧倒的に日本より多いイメージでした。

研修の後、セント・ピーターズバーグ市の高校生たちと、レーザータグというサバイバルゲームのようなものを行いました。僕はシューティングゲームが好きで、ゲームを通して友達になった現地の高校生もいたので、とても盛り上がり、みんなで楽しみました。



チキンワッフル

**7月26日(金)**

この日の研修は、商工会議所でプレゼンテーションをした後、イマジンミュージアムというガラスアートがたくさんある美術館の見学でした。

日本での事前研修などで、たくさん練習してきたプレゼンテーションを、上手くやれるかという心配や、高松の魅力を楽しんでもらえるという興奮でいっぱいでした。ずっと練習していたので、自分が思っていたよりも、良いプレゼンテーションができました。商工会議所の方も喜んでくれて、瀬戸内海の規模や、高松市とセント・ピーターズバーグ市の気候の違いなど、たくさん質問もしてくださりました。特に、雪が降っている写真に、とても興味を示してくださりました。私は瀬戸内国際芸術祭のことを紹介したので、この芸術祭のTシャツを着ていたのですが、商工会議所のCEOの方が興味を示してくださったので、商工会議所のTシャツと私が着ていたTシャツとを交換しました。商工会議所の皆さんと、高松についての話が弾んだので、とても楽しかったです。



商工会議所のCEOとシャツ交換



イマジンミュージアムでの1枚

その後、ガラスアートで有名な、イマジンミュージアムの見学に行きました。この美術館には、ガラスアートが始まった頃の作品から現在の作品までと、色々な種類のものがある、とても綺麗でした。

研修の後、レイラのお気に入りのお寿司屋さんに、夕食を食べに行きました。そのお店は本格的で、お刺身を食べることができました。お寿司は巻き寿司系ばかりでしたが、美味しかったです。久しぶりに日本の料理を食べたので、少し日本が恋しくなりました。

夕食後、レイラとボウリングに行きました。そこには、研修生のみんなや、その友達たちが沢山集まっていました。

ボウリングをしたことはありませんでしたが、みんなで楽しく夜中まではしゃいだので、私はヘトヘトになりましたが、みんなはずっとハイテンションで、元気いっぱいすごいなと思いました。この日は帰宅したのが24時ぐらいで、帰るなりすぐに寝てしまいました。

**7月27日(土)**

この日の研修は、ミュージアム オブ ファイン アーツという美術館で折紙のワークショップをし、プールサイドで昼食をとるというものでした。

美術館に行く前に、公園で行われていた朝市で朝食をとりました。値段は少し高めでしたが、とてもフレッシュで美味しいものばかりでした。

折紙のワークショップは、現地の人たちに鶴の折り方を伝え、折紙に興味をもってもらうというものです。私たちが思っていたよりも多くの人に参加していただき、頑張って鶴が折れた皆さんは、



折紙ワークショップ中

とても嬉しそうな顔をしてくださったので、とても達成感がありました。しっかりと日本で先生に教わった甲斐があったなと思い、折紙の先生に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、意外と折紙の鶴に元々興味がある人が多いんだと感じました。親子連れの人たちも多く、老若男女に楽しんでもらえたワークショップになって良かったです。

プールパーティーには、セント・ピーターズバーグ市の研修生の友達が沢山来ました。日頃からの公式研修にも、レイラや他の研修生の友達が来ていました。私達は、公式研修に友達を呼ぶことなど、考えてもいないことだったので、文化の違いを感じました。

プールで遊んだ後、私達はジェラートを食べに行きました。ジェラートは日本で食べられるものと似ているかなと思っていましたが、味の種類が日本とは違って、コーヒーのフレーバーが多めで、ピーナツバター味など、日本ではあまり見かけない味もありました。

一度家に帰って夕食をとった後、ビーチ観光に行きました。このビーチはとても広く、夕方だったので涼しく、多くの人が泳いだり、犬の散歩などをしていました。私達は、写真を撮ったり、frisbeeを投げたりして遊びました。海の水は冷たくなく、涼むにはちょうどよい温度でした。ビーチの砂も、小麦粉のようにさらさらで感動しました。

ビーチ散策の後、他の人たちの夕食がまだだったので、夕食を食べに行きました。私はハンバーガーを食べました。僕たちが行ったお店では、お酒が飲めない年齢の子供たちにも、カクテルの味を楽しんでもらえるように、アルコール無しのカクテルを注文することができました。私はこれに挑戦してみましたが、慣れない味で少し悪戦苦闘しました。



ビーチで大岡さんと研修生テイラー（奥） 悪戦苦闘しました。

## 7月28日(日)

この日は、ホストファミリーデーでした。レイラの友達のお父さんの船にのせてもらい、レイラやレイラの友達たちと一緒にマリンスポーツをしに行きました。私はサーフボードを船にくくりつけて、その上に立って引っ張ってもらう、はたから見たらとても簡単そうなものをチャレンジ



夕食のピザ（1人1枚）



チュービング

しました。しかし、いざサーフボードの上に立つとなると、止まっても不安定で、引っ張られる余裕は少しもありませんでした。3回ほどすぐ

に落ちては再チャレンジしてというのを繰り返していたら、4回目には乗りこなせるようになっていました。海の水はとても温く、聞いたところでは30度ほどになることもあるそうです。他にも、ゴムボートを船にくくりつけて船を走らせ、振りほどかれぬように必死にしがみつくと、チュービングというものにもチャレンジしました。

みんなと別れた後、ホストファミリーの全員でショッピングモールに行きました。新しい水着を買おうと、いろいろなお店を周りま

したが、大人用の水着はほとんどが僕にとってサイズが大きく、日曜日だったのですぐお店が閉まっ  
てしまい、結局買うことができませんでした。夕食にはピザを食べました。このピザは一人前がワン  
ホールという、僕にとってはとてもビックサイズでした。

この日の夜は珍しく、家でゆっくり過ごすことができました。

## 7月29日(月)

この日の研修は、セント・ピーターズバーグ市のダウン  
タウンの壁画アート巡りでした。今まで気がつかなかった  
ところに描かれてある絵に驚いたり、とても壮大なスケ  
ールの絵に圧倒されたり、自分のお気に入りの絵を見つ  
けたりと、とても楽しかったです。僕が凄いなと思った  
絵の幾つかが、違法に描かれていたものと知ったとき  
は、とても驚きました。

セント・ピーターズバーグ市の壁画を楽しんだ後、海  
鮮丼が食べられるお店につれていってもらいました。私  
はサーモン、蟹、きゅうり、玉ねぎなどが入っている  
海鮮丼を食べました。豆腐の丼というものもあり、私  
がめずらしがっていたら、レイラが、ベジタリアンの人



壁画の前で変顔

お肉や魚の代わりに、よく豆腐を食べているということ  
を教えてくださいました。日本ではあまりベジタリアン  
の人が多いので、ベジタリアンの人たちのことが少し  
理解できました。

昼食を食べた後、セント・ピーターズバーグ市のダ  
ウンタウンから少し離れた観光ビーチにショッピングに  
行きました。そこは観光ビーチなので、やはり沢山の  
お土産に適しているものが売っており、ほとんどのお  
土産を買いました。皆でお土産を買った後でジェラ  
ートを食べに行きました。観光地だったので少し高か  
ったのですが、皆で歩き回りながら食べました。



ホストファミリー

皆と別れた後、私はテレビゲームという共通の趣味  
で友達となり、レイラの彼氏でもあるジャスティン  
とテレビゲームをすることとなりました。短い時間  
でしたが、とても楽しい時間を過ごしました。そ  
して、趣味が同じなだけなのに、こんなにも仲良  
くなれるのかと、驚きました。

ゲームをした後に、他の研修生や高校生たちと  
色々な種類のトランポリンがある遊び場に行き  
ました。日本にはあまりこういうところがない  
ので、ほとんど初めての経験でした。そこには  
子どもから大人まで遊んでいて、たまに小  
さい子ども達とも遊んだりしました。アメリ  
カの小さい子ども達は、人懐っこい子が  
多かったです。

私は夕食のときに、日本からホストファミリー  
へのお土産として持ってきた、ふりかけを  
ホストファミリーにプレゼントしました。私の  
ホストファミリーは、フィリピン系の家系  
だったので、ほとんどの食事に  
お米が出てきました。海外のお米は、  
日本のお米とは全然違うとは聞  
きましたが、そんなことはなく、  
私がお世話になった家のお米は、  
日本でもよく食べるようなもの  
でした。ふりかけは意外と皆す  
んなりと受け入れ、美味しそう  
に食べてくれました。特に、わさ  
び味のふりかけは、沢山食べ  
てくれました。

## 7月30日(火)

この日は、朝早くからレインボーリバーという川に遊びに行きました。

セント・ピーターズバーグ市には山がなく、ましてや川もほとんどないので、遊べるような大きい川に行くには、片道約2時間半必要でした。この日はアメリカの高校生と遊べる最後の日だったので、存分に楽しもうと、できるだけ皆と話す努力をしました。この川は有名らしく、設備もしっかりしていて、沢山人も来ていました。川の水は海の水とは違って、冷たかったです。川を下りながら、むこうの高校生といろいろなことを話し、絆が深まりました。

その日の夜は、私たちのためにフェアウェルパーティー（送別会）を開いてくれました。そのパーティーには、セント・ピーターズバーグ市にいる色々な国から来た人たちが参加してくれて、自国の夕食を披露してくれました。



レイラとレイラの親友ジェイミー

私は、このときに自分の得意な書道を皆に披露すべく、書道セットを持って来ていました。思っていた以上に、皆が書道に興味を持ってきて嬉しかったです。私は皆の名前をひらがなで書いてあげたのですが、ものすごく喜んでくれて、注文がどんどん入り、ご飯を食べる暇がありませんでした。それでも私の書いた字を喜んでくれるのは嬉しかったです。

楽しかった新しい友達との時間もすぐに過ぎ去ってしまい、お別れの時間が来てしまいました。私は帰国後も連絡をすることを皆と約束し、レイラと共に家に帰りました。

家に帰ってからは帰国の準備に追われ、あまりホストファミリーと話をすることができず、とても後悔しています。



現地の友達と

## 7月31日(水)

この日は朝早くから空港集合で、あまりホストファミリーと話す時間がありませんでした。出発する前に、ホストファミリーからのお土産として、マカロニアンドチーズという、アメリカの家庭料理のレトルト食品をもらいました。

急いで空港に向かい、少し遅刻してしまいましたが、無事に空港まで着くことができました。

空港に着いたら、本当にお別れしなくちゃいけないんだという実感が湧いてきて、涙が溢れそうになりました。しかし、決して最後の別れにならないように、絶対にセント・ピーターズバーグ市に戻ってくるとホストファミリーと約束をし、将来絶対に戻ってくるといふことと、10日間面倒をみてくれてありがとうという感謝を伝え、搭乗口へと向かいました。



お揃いのTシャツ



タンパ空港でのお別れ前の集合写真

帰りの飛行機は行きより短く感じ、たまにレイラやホストファミリーのことを思いだし、泣きそうになりました。このフライトの中で、私は多くの楽しかったことを思い出しました。ロッタさんや協会の方たちが、私たちに良い経験をさせてくれようと練ってくださった研修の内容は、すべて素晴らしいものでした。楽しくて、濃厚で、興味深いものが多く、セント・ピーターズバーグ市の素晴らしさを、自分自身で体験することができました。どれも私には最高の思い出です。また、上手く英語で会話できなかつたり、時には文化の違いに柔軟に対応できなかつたりと、課題も山のようにあります。たくさんのことを考えていたので、

帰りの約 10 時間のフライトはすぐに終わりました。

## 8月1日(木)

羽田空港に着いたときは、空気の匂いや、その場の雰囲気日本で着いたんだなという実感が湧いてきました。そして、掲示板が日本語ということにも安心しました。

高松空港に着いたときは、研修が無事に終わった安心感と、親元を離れて長い間海外にいたという達成感が込み上げてきました。その日の夕食にずっと食べたかったお寿司を食べ、改めて日本の食文化の素晴らしさに気づくことができました。現地での研修は終わりましたが、この研修を通し、日本との文化の違いについて考え直したり、研修で体験したことから多くのことを学ぶということが、本来の目的だと思っているので、私はこれからの事後活動も頑張り、何事にも積極的にチャレンジし続けると心に刻みました。また、今度は自分の力で私のもうひとつの家族に会いに行けるように、頑張っ努力し続けると決心しました。

## 感想文



### 新しい目標

香川県立高松高等学校 1年  
菅 凜太郎

私は、今回の研修で、自分が思っていた以上に沢山の経験をする事ができました。日本以外の文化に直接触れたり、親元を離れて海外に行ったり、英語だけで毎日を過ごしたりと、初めての経験ばかりでした。

私の家庭は、毎年ホストファミリーとして海外からの青年を家に迎え入れています。そのお陰で、海外の人と話す機会が多く、海外の人と話すことに少しも抵抗がありませんでした。しかし、いつも私の英語力が足りず、話が続かなかったり、相手の話に深入りができず、悔しい思いを何度もしてきました。そこで私は今回の研修の目標を、「何事にも積極的に取り組む」というものにし、それと共に英語力の向上を目指しました。

ホストファミリーとして受け入れる方ではなく、初めて新しい家族に受け入れてもらう立場になってみて、色々なことを発見しました。長いようで短かった10日間を元気で安全に過ごせたのは、なんといってもホストファミリーである私の第2の家族のおかげだと強く感じました。将来、今度は自分の力でセント・ピーターズバーグ市に戻って、もう一度会いに行きたいです。

なんといっても、日本では私がホストファミリーとして受け入れ、セント・ピーターズバーグ市では私を受け入れてくれた、セント・ピーターズバーグ市の親善研修生でもあり、私の一生の親友であるレイラと出会えて、本当に良かったと思います。初めて海外に年齢が近い友達ができました。自分から積極的に話そうとしたので、とても英語の勉強になったなと思いました。

「何事にも積極的に取り組む」という目標でこの研修を過ごしましたが、積極的に取り組むのはいいものの、自分の能力が足りず、やりきることができないこともありました。この悔しさを次に活かし、英語力をもっと身に付け、「取り組む」という、最初から完璧にやりきる予定でやるのではなく、「チャレンジ」という、挑戦する気持ちを大事にしたいなと思いました。そして、今度は自分の力で第2の家族のところに行くという目標を達成すると決心しました。



